

「環境リスクへの対応」

(株)環境セキュリティ・システム研究所 代表取締役 米ヶ田 健司

『や一助かりました、ISOに取り組んでいて。先週、排水の流失事故が起きましたが、不幸中の幸いで敷地外に出る前に食い止められました。緊急時対応へのテストを行い、社員にも訓練していたことで、土嚢と仕切り板だけで社外流出を防止できました。もし、社外へ流出していたら、回収に500万円以上かかる場所でした。それに近隣からの信用を失うことも考えると、大変な被害を受けるところでした。未然に防げたのは、ISO(環境マネジメントシステム:14001)に真面目に取り組んでいたお陰ですよ。』

環境リスクを回避した、こんな例もあります。

『大口の顧客を失わずに済みましたよ。あの有機溶剤の使用をやめることを目標に取り組んできておいて良かった。あのまま何のリスクも考えずに使い続けていたら、今頃は、取引を切られていたかもしれせん。会社の存亡の危機でした。』

また、リスク回避を事業発展に転換した、こんな例も。

「ISOに取り組んで排水基準をクリアしていないことが判明しました。『このままでは流せないから、産業廃棄物として処理するしかない。ISOは金ばかり掛かる。何か上手い方策を考えないと。排水を再利用する方法を考えよう。』ということで、排水から成分を抽出して再原料化するプロジェクトがスタートし。今や、それが新製品として市場に出回り始めました。」

すべて私がコンサルタントとして関わった企業で本当にあった話です。

新聞やテレビに出るような大事故や問題以外にも、「環境リスク」と言えそうなものは、日常の企業活動や生活と常に隣り合わせにあります。

最近では、製品やサービスに、品質(Quality)・コスト(Cost)・納期(Delivery)に加えて、環境(Environment)を求めるケースが極めて多くなってきています。

更に、何につけリスク(売上・コスト・品質・環境・安全・情報・財務など)は、つきものであって、いかに上手にリスクとつき合っていくか。「負のリスク」をどのようにして「プラスに転じられる」かで、企業の行く末は変わる。ISOを経営の道具として考える所以です。